

この人こそパイオニアだった！  
いま、筆子に光が当たる意味が、  
よく分かる初めての書

鳩が飛び立つ日

# 「石井筆子」読本

男女共同参画と特別支援教育・福祉の母

津曲裕次 著

好評発売中！



若き筆子と生地長崎の大村湾

中学校「道徳科」(平成31年度から)「読み物資料集」に取り上げられて注目の「鳩が飛び立つ日」石井筆子  
近年まで広く知られなかつた生涯が、第一人者により、  
時代と重要人物のつながりの中に鮮やかに浮かび上がる。

学術資料出版

大空社出版

資料に命のちを  
作品に心こころを  
形にして伝える。

www.ozorasha.co.jp

# 鳩が飛び立つ日「石井筆子」読本

男女共同参画と特別支援教育・福祉の母 津曲裕次 著



石井筆子 (1861~1944)

(ヨーロッパ留学の頃)

「筆子」こそ、

日本の女子教育の先導者であり、男女共同参画思想の先駆者であり、日本の知的障害教育・福祉の創始者

とでもいってべき人 (著者)

幕末、勤王派リーダーの家に生まれ、明治初頭に官立女子教育を受け、ヨーロッパに留学、鹿鳴館などで貴人洋人と交際、男女不平等に悩みながら結婚(夫・早世)、女子教育と女性の地位確立に力を注ぐ。三人の子ども(夭折・知的障害)を育て失うなか、公的活動から退き石井亮一とともに、滝乃川学園で障害児教育に専心。

時代の奔流と置かれた苦境に屈することなく、人間本来の心と信念で、つねに自らの決断をもって拓き、実践した感動の生涯

## 【概要】

- 第1部 筆子の生涯  
幼少 / 女子教育 / 特別支援教育・福祉時代
  - 第2部 「石井筆子、研究の流れ」  
無名、の時代から復活さらに「ブーム」の到来
  - 第3部 石井筆子の著作と資料  
筆子の著述・図書資料 / 滝乃川学園出版物 / 石井筆子評伝 / ご当地刊行物
- 〈付〉人名索引 (筆子との関連を主にした解説付き)  
略年譜 / 文献一覧

豊富な写真(滝乃川学園秘蔵資料・初公開原稿などと、分かりやすくやさしい語り口で、筆子の伝え遺したかったものが、ひしひしと心に迫ってくる！)

〈著者紹介〉津曲裕次 (つまがり・ゆうじ)

1936年生まれ。長崎純心大学客員教授、筑波大学名誉教授、高知女子大学名誉教授。知的障害児教育・福祉学、知的障害児施設史。

- 幼少時代
- 1861(文久元) 肥前大村(現・長崎県大村市)で生誕(渡辺姓)。
  - 1872(明治5) 上京。翌年、官立女学校入学。英語習得。
  - 1877 クララ・ホイットニーのバイブル塾に通う。
  - 1879 長崎で、前アメリカ大統領グラントに会見。
  - 1880(明治13)~1882 ヨーロッパ留学。
  - 1883 鹿鳴館時代(~1886)。84年、小鹿島果(おがしま はたす)と結婚。
  - 1885 華族女学校の教師(フランス語)となる。
  - 1886 長女誕生(平塚らいてう [1886~1971]と同じ年)。長女(知的障害者)とともにキリスト教受洗。
  - 1888(明治21) 大日本婦人教育会・発会式で演説。以後、常集会や機関誌で活発に講演・通訳・執筆。
  - 1890 次女誕生、数ヶ月で死去。
  - 1891 三女誕生。10月、濃尾大地震発生、石井亮一(1867~1937)は被災孤女のため「孤女学院」設立(のち、知的障害児教育に着手。現・滝乃川学園の始まり)。
  - 1892 夫・果、35才で病没。のち、2人の子どもと渡辺姓に復帰。
  - 1895 聖公会の静修女学校校長になる。デンマークのヨハンネ・ミュンター(のち婦人参政権活動家)来日、親交を結ぶ。
  - 1896 石井亮一、渡米、知的障害児教育の理論と実際を学ぶ。
  - 1897(明治30) 孤女学院改称し「滝乃川学園」(園長・亮一)に、知的障害教育部開設。筆子は長女を学園へ委託。
  - 1898 三女死去(8才)。米国デンバー市で開催の万国婦人倶楽部大会に日本代表として、津田梅子(1864~1929)と渡米。
  - 1899 華族女学校退職。
  - 1900(明治33) 梅子、女子英学塾(現・津田塾大学)設立。
  - 1903 筆子、石井亮一と結婚。以後、亮一と滝乃川学園を運営、障害児教育に専心。
  - 1906 滝乃川学園、巢鴨村に移転。筆子の長女、特別支援教育を受ける。
  - 1911(明治44) 平塚らいてう『青鞜』発刊(元始、女性は太陽であった)。
  - 1916 長女死去(30才)。「鳩が飛び立つ日」の由来がここに!
  - 1918(大正7) 東京青山墓地に亡き三児の墓碑「三羽の鳩」建立。
  - 1920 学園火災で犠牲者6名。閉鎖を決意するも、周囲の激励、要望に応え再開継続。学園、財団法人化。
  - 1928(昭和3) 学園、現在地・東京都国立市谷保に移転。
  - 1934(昭和9) 日本精神薄弱者愛護協会(現・日本知的障害者福祉協会)結成(初代会長・石井亮一)。
  - 1937 筆子、軽度脳溢血、車いす生活に。6月、石井亮一死去。筆子、第2代園長となる。
  - 1944(昭和19) 1月、筆子死去。\*
- 筆子ブーム
- 1952(昭和27) 滝乃川学園、社会福祉法人に。
  - 2002(平成14) 大村市市制施行60周年記念事業「近代を拓いた女性 いばら路を知りてささげし 石井筆子の生涯」シンポジウム。
  - 2003(平成15) 筆子愛用の「天使のピアノ」国立市登録文化財指定。
- 映画、ドキュメンタリー、テレビ、ラジオ、出版、シンポジウム、地域企画展などで、「石井筆子」が続々と取り上げられている。
- 2012(平成24) 文部科学省作成『中学校道徳読み物資料集』に「鳩が飛び立つ日 石井筆子」が収録される。(2019年より新しい教科「道徳科」実施予定)

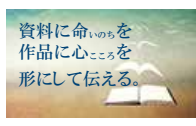
時代を先駆けていた 石井筆子

●日本近現代史上に欠かさない重要人物が多数登場

特別支援教育・福祉時代

筆子ブーム

学術資料出版  
大空社出版



www.ozorasha.co.jp

eigy@ozorasha.co.jp  
TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461  
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

## ■関連書 (大空社刊)

- シリーズ 福祉に生きる 津曲裕次編
- [49] 石井筆子 津曲裕次 (2006) 定価 2,200円 (本体2,000円+税10%)
- [51] 石井亮一 津曲裕次 (2008) 定価 2,200円 (本体2,000円+税10%)

滝乃川学園 石井亮一・筆子が伝えた社会史 (1)女子教育から知的障害者教育へ 津曲裕次 (2012) 定価 1,760円 (本体1,600円+税10%)  
知的障害者教育・福祉の歩み 滝乃川学園百二十年史 滝乃川学園・津曲裕次監修編集 (2011) 定価 52,800円 (本体48,000円+税10%)

●ご注文は